



= 第1回 = もりメイトキッズ

参加：小学生 14 名・未就学児 11 名 保護者 19 名(14 家族)
スタッフ：15 名・学生ボランティア 2 名



梅雨の最中で天気が心配されましたが、そんな心配を吹き飛ばすほどの快晴。今年度最初のもりメイトキッズを開催しました。今年度のキャッチフレーズは

「もりとなかまと手をつなごう」。人と森に生息している動植物との関りを森林整備体験を通じて探ることをテーマに 4 回シリーズで行います。

第 1 回は“竹”。竹の特性を知り、人々が日々の暮らしの中でどのように竹と関り活用してきたのかをワークし、

さっそく竹林整備に取り掛かりました。

急斜面にある竹林での作業は大変でしたが、子ども達はスタッフの説明をよく聞いて、怪我無く無事に体験する事ができました。重力が掛かり次第に伐りにくくなる竹をどのように伐り倒すか、枝を払って伐った竹は見栄えよく並べる、竹は節のすぐ上で切ることで降った雨水が溜まらず蚊の発生を防ぐなど、作業のポイントもわかりやすく伝えられていたようです。



竹林整備の様子



学生とキッズ



ヨイショ、伐倒した竹を運ぶキッズ



みんな真剣！クラフトの説明

■お昼のメインはカレーライスとサラダ。森の中でみんなと一緒に食べるランチはやはり格別です。午後からは、伐り倒した竹を利用してクラフトを楽しみました。竹の輪切りを使ってカタツムリ作りに挑戦。タイミングよく本物のカタツムリがいたので、観察を交え作業を行いました。渦の部分は大、中、小の竹を輪切りにし、触角部分はサンダーで形を整えドリルで穴を開け、竹の節を触角にしました。意外に難易度の高い作業だったようで子供たちは苦戦していたようです。



二つに割ったタケにバターを塗りました。

■この度は、弟や妹など幼児の参加も多く、小学生と幼児に分かれそれぞれのプログラムに取り組みました。幼児チームは、森の中で保護者と一緒にビンゴゲームを楽しみました。ゲームを通してザラザラ、チクチク、スベスベ、フワフワなど自然の中ならではの感触を体感しました。その後は小学生が切った竹を利用して、ホットケーキを作りました。二つに割った瑞々しい竹の内側にバターを塗り、卵と、スタッフ北田夫妻自家製の梅入りジャム入りのタネを入れ、炭火でじっくり焼き上げました。ケーキは、おやつタイムに全員でいただきました。美味しかった～！



お父さんと一緒に竹を切りました。

■まるで真夏のような暑さでしたが、森の中のせせらぎや、木陰で涼しく感じる参加者が多かったようです。またアンケートでは『自然に触れ合う機会を子供に経験させたい』と言われる方が多く、森での整備や、恵み、危険について学び、森で遊ぶことで自然に親んでもらえるようなプログラムを色々考えていきたいと思っています。

『環境教育研究部会長 佐々木綾子』



カタツムリだよ

